

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |   |  |   |            |
|----------|------|---|--|---|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題  | 目標   | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容  | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 53   | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br/>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った仲間同士で思い思いに過ごせる居場所としては、窓際のテーブルセット、畳敷きの茶の間、ソファ、マッサージチェアが配置してあるので、居場所の確保は出来ている。<br/>あいむは「共同生活介護」、「共同生活だから出来る認知症介護」を運営の中心としてきている。<br/>昭和二桁代の利用者や共用デイの利用者の中には、居室で一人で居るのは好まないが、他の方々との団欒は苦手とされるタイプの方の利用がみられる様になり、あいむとして無視出来ない感がある。<br/>団塊の世代の方の利用も含めて、そのような方の居場所づくり、生活づくりに取り組む必要があるのではないかと考え始めている。</p> | <p>共同生活介護の場において、「独りの空間を好む」利用者さんを対象に、新評価基準を基に過ごし方の観察・分析を行なう。<br/>その後、共同生活空間内で新たな観点に基づく居場所づくり、生活づくりを試行して、団塊の世代利用者にも対応できる認知症対応型共同生活スタイルの方向性を見出していく。</p> | ①過ごし方の観察<br>常勤職員は課題を意識して、あらためて利用者の表情、行動、会話等、共用空間における利用者各々の過ごし方を観察する。                                | 0-1ヶ月      |
|          |      |   |  | ②QC会議での観察報告と評価基準コンセンサス<br>①の観察内容を月例QC会議において情報交換すると共に、過ごし方評価の判断基準コンセンサスを築く                           | 1ヶ月        |
|          |      |   |  | ③評価基準に基づいて再度過ごし方観察<br>常勤職員は利用者の表情、行動、会話等からグループホームあいむ共用空間における過ごし方を評価基準に基づいて観察して3段階判定を行う。(良い・普通・良くない) | 1-2ヶ月      |
|          |      |   |  | ④特定利用者に対するMG職員からの思いの聞き取り<br>3段階判定にて気にかかる利用者には、MG職員から「ご本人の思いの聞き取り」を実施して、ご本人の意向を探る                    | 1-2ヶ月      |
|          |      |   |  | ⑤常勤職員全員による過ごし方の評価協議<br>各々による3段階評価に加え、非常勤職員の意見も合わせて、月例QC会議において総合評価をまとめ、過ごし方改善対象利用者を選定し、取組優先順位等を決定する。 | 2ヶ月        |
|          |      |   |  | ⑥対象利用者に対しての過ごし方改善に着手する。(仮説 → テスト運営 → 検証 → 協議)   | 2-3ヶ月      |
|          |      |   |  | ⑦対象利用者および他の利用者の過ごし方を検証・分析して新たな方向性を見出す   | 4-6ヶ月      |
|          |      |   |  |   |            |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。